

サバティ新聞

- 高知河ノ瀬版 -
2022.9月号

再燃！情熱の高知！！



「商店街に顧客を呼び込むような人が集まってくる何かをしよう」この一言がきっかけで、持続性のあるお祭りとして「よさこい祭り」を、8月に開催することが1954年に決まりました。全国で降水量が一番多い高知なので、降水確率の一番低い8月10日・11日に決定したのが始まりです。

3年ぶりの開催に、テレビにくぎ付けで見られて方も今年は多かったのではないのでしょうか？8月9日の花火大会を皮切りに、高知の熱い夏が開始されました。高知市内12カ所の会場で、踊り子が一斉に鮮やかな衣装で乱舞します。

数年前から、鳴子の持ち方・打ち方が審査基準になったことで、どのチームも打ち方の基礎から各自練習に入るそうです。

工夫を凝らしたチームのシンボル「地方車」。太鼓の音色が、祭りを一層引き立たせてくれます。曲のどこかに「よさこい踊り」のフレーズを盛り込む音楽は、伝統の旋律・独創性に合わせ、様々なメロディーが聞く人の心を和ませます。

人々を魅了させる鮮やかな衣装は、豊かなバリエーションと個性に溢れたデザインです。踊り子の快適性や、動きやすさにも配慮された衣装ですが、実は翌年の前夜祭出場にもかかった採点基準であるため、チームのプライドをかけた表現の一つにもなっています。

各審査会場にて授与されるメダル、以前は各競技場にて個人賞を決定してその場で授与したのが始まりだそうです。審査員の厳しい目で、元気いっぱいの笑顔とみなぎる踊り子に授与されるご褒美のメダルは、木製や鳴子のメダルなどがあり、工夫とセンスに満ち溢れた記念の勲章です。

「鳴子を鳴らしながら前進すること」が基本の踊りの型とします。100人前後の踊り子達の一糸乱れぬ群舞は、どのチームも圧巻であり優雅で妖艶も感じられます。どのチームも結集し、パワー・スケールから元気と勇気をたくさんもらいます。心が躍り、町が揺れ会場が一体になる「よさこい祭り」、いつまでもみとれてしまいます。



今年は蚊が少ない？！

梅雨が早く明けたかと思えば、異常な天気に見舞われた全国各地。「戻り梅雨」の後から来た、猛暑と少雨。そんな天気の中、今年には蚊が少ないことにお気づきでしょうか？水(水たまり)が少ないことで、蚊の卵が成長しなかったことから蚊の発生が少なかったんです。でも、油断大敵!これから天気が回復すると、蚊の卵も成長しまた蚊が発生します。明るい服を着た方が、蚊に刺されにくい傾向だとか?これからが、防虫剤の出番かもしれません。



はりまや橋

「土佐の高知のはりまや橋で、坊さんかんざし買うを見た」♪の、よさこい祭りのフレーズにもなっている、純信とお馬の恋物語で知られているはりまや橋。この恋物語の由来は、時は江戸時代。堀川をはさんで商売をしていた「播磨屋」と「櫃屋」が、両者の往来のために私設の橋を架けたことが「はりまや橋」の由来。川のせせらぎを再現した公園として整備し、今の場所に復元したそうです。



見学・体験、随時受付中！

月	火	水	木	金
◎	◎	◎	◎	◎

・1日型：9:00～17:00

・半日型：9:00～12:15 / 13:30～17:00

どんなご相談でもお気軽にお問い合わせください！

電話  **088-837-1081**

ファックス  **088-837-1082**



CAVATY

サバティ高知河ノ瀬店

機能回復リハビリスタジオ サバティ高知

介護保険事業所番号
3970105585

〒780-8034

高知県高知市南河ノ瀬町1-2

ホームページはこちら

<https://www.cavaty.jp/>



9月生まれのご利用者の皆様おめでとうございます！

9日……	……	12日……	……
15日……	……	18日……	……
20日……	……	24日……	……
26日……	……		